

取扱暗号資産の概要説明書

概要書更新年月日		2025年6月30日
日本語の名称	ポリゴンエコシステムトークン	
現地語の名称	Polygon Ecosystem Token	
呼称（日本語の名称と同じ場合は一表記）	-	
ティッカーコード（シンボル）	POL	
発行開始（年、月、日）	Polygon上のMATICとして2020年5月30日	
時価総額（ドル基準、例： \$ 1,000,000）	\$1,904,051,326	
時価総額（円基準、例： ¥ 100,000,000）	¥275,725,672,485	
主な利用目的	送金、決済、ネットワーク手数料、ステーキング	
利用制限の有無	-	
海外流通の有無	あり	
国内流通の有無	あり	
店舗等の利用制限の有無	-	
利用制限を行う者の属性	-	
利用制限の内容	-	
一般的な性格	<p>Polygonは、Ethereumのスケーラビリティ問題の解決・補完を目指しているLayer2 Solutionプロジェクトとして開発された。</p> <p>Polygonは、Ethereumなど異なるブロックチェーンとの間で資金移動ができるブリッジ機能を有しており、Ethereumに比べ、比較的安価な手数料で送金を行うことができるという利点をもつ。</p> <p>Polygon上で、プロジェクトが構築するPolygon PoSチェーンのネイティブトークンであるPOLが発行される。</p> <p>送金やスマートコントラクト実行の際の手数料支払いに利用され得る。</p>	
法的性格（資金決済法第2条第14項第1号、第2号の別例：第1号）	第1号	
2号の場合：相互に交換可能な1号暗号資産の名称	-	

	発行暗号資産に対する資産（支払準備資産）の有無および名称	なし
	発行者に対する保有者の支払請求権（買取請求権）	なし
	支払請求（買取請求）による受渡資産	なし
	発行者が保有者に付与するその他の権利	なし
	発行者に対して保有者が負う義務	なし
	価値の決定	保有者間の自由売買による
	交換（売買）の制限	なし
	価値移転、保有情報を記録する電子情報処理組織の形態	パブリック型ブロックチェーン
	保有・移転記録台帳の公開、非公開の別	公開
	保有・移転記録の秘匿性	公開鍵暗号の暗号化処理を施しデータを記録
	利用者の真正性の確認	秘密鍵と公開鍵を用いた暗号化技術により、利用者本人が発信した移転データと特定し、記帳する。
	価値移転記録の信頼性確保の仕組み	Proof of Stake (PoS) に則って、記録者（バリデータ）が取引履歴を管理し、ブロックを承認する。記録者が悪意のある行動を取るとペナルティが課される（ステーキングしたPOLが没収される）台帳形式。
	誕生時に技術的なベースとなったコインの有無とその名称（アルトコインのみ）	Polygon : Cosmos-SDK
〔取引単位・交換制限〕	取引単位の呼称	POL
	保有・移転記録の最低単位	1wei (0.00000000000000000001POL)
	交換可能な通貨又は暗号資産	全て可
	交換制限	－
	制限内容	－
	交換市場の有無	あり
〔連動する資産の有無等〕	価値が連動する資産等の有無	－
	価値連動する資産等の名称	－
	価値連動する資産等の内容	－
	価値連動する資産との交換の可否	－
	価値連動する資産との交換比率	－
	価値連動する資産との交換条件	－

【付加価値】	その他の付加価値（サービス）の有無	あり
	付加価値（サービス）の内容	—
	過去3年間の付加価値（サービス）の提供状況	—
【発行状況】	発行者	あり
	発行主体の名称	Polygon Labs
	発行主体の所在地	10 Market Street Camana Bay, Unit 2057 Grand Cayman, KY1-9006 Cayman Islands
	発行主体の属性等	営利企業
	発行主体概要	Polygon Technologyは、パブリック型ブロックチェーンのプロジェクトとして、イーサリアムのスケーラビリティ問題の解決・補完に取り組んでいる。Jaynti Kananiら4名の創業者Maticが設立、2021年2月にPolygonに名称変更。
	発行暗号資産の信用力に関する説明	ネットワークに分散的に参加する記録者の承認によって、信用力が維持されている。
	発行方法	ブリッジプログラムによる随時・間接的発行
	発行可能数	10,000,000,000（100億）POL
	発行可能数の変更可否	不可
	変更方法	—
	変更の制約条件	—
	発行済み数量	10,000,000,000（100億）POL
	今後の発行予定または発行条件	なし
	過去3年間の発行状況	10,000,000,000（100億）POLが発行されている
	過去3年間の発行理由	初期発行
	過去3年間の償却状況	2024年8月26日現在で累計28,048,928POLが償却されている
	過去3年間の償却理由	EIP-1559（優先手数料は引き続きバリデータに支払われる一方、基本手数料は焼却する扱いに変更するメカニズムの実装）がPolygonにも導入されており、取引手数料の一部が焼却されている https://burn.polygon.technology/
発行者の行う発行業務に対する監査の有無	あり	

	監査を実施する者の氏名又は名称	CertiK
	直近時点で行われた監査年月日	2021年4月19日
	直近時点における監査結果	指摘された点については修正済み https://www.certik.com/projects/matic
価値移転記録台帳に係る技術	ブロックチェーン技術の利用の有無	あり
	ブロックチェーンの形式	パブリック型ブロックチェーン
	ブロックチェーン技術を利用しない場合には、その名称	—
	利用するブロックチェーン技術以外の技術の内容	—
	価値移転認証の仕組み	台帳形式。Proof of Stake (PoS) に則って、記録者（バリデータ）が取引履歴を管理し、ブロックを承認する。
	価値記録公開/非公開の別	公開
	保有者個人データの秘匿性の有無	あり
	秘匿化の方法	公開鍵と秘密鍵による暗号化
	価値移転ネットワークの信頼性に関する説明	記録者の多数決による確認を経て移転記録が認証される仕組みを用い、多数の記録者のネットワークへの参加を得ることによって信頼性を確保する。 Polygon上で発行されるPOLでは、ステーキングされたPOLの2/3を超える分の合意が必要である。
記録者の数	2025年7月22日時点のノード数： 279(Polygon) 参照先： https://polygonscan.com/nodetracker	
記録者の分布状況	記録者は世界中に分散している。 2025年7月22日現在のTop5 (Polygon) United States:113(40.07%) Germany:45 (15.96%) England:43 (15.25%) France:34 (12.06%) Canada:20 (7.09%) 参照先： https://polygonscan.com/nodetracker	
記録者の主な属性	報酬を得るためにステーキング活動を行っているステーキングプール及びプール参加者が主体	

価値 移 転 の 記 録 者	記録の修正方法	ブロックに記録された後は修正・変更は行われ ない。
	記録者の信用力に関する説明	記録者による多数の合意がなければ不正が成立せず、記録者が十分に多数であることによ って、個々の記録者の信用力に頼ることなく、記録保持の仕組みそのものにより信用が維持されている。 また、Polygonの記録者になるためには、必要なPOLをステーキングするだけの資金と、ノードを運用する能力を持 っていなければならない。また、報酬を得るために正しい記録を行おうとするインセンティブが働く。
	価値移転の管理状況に対する監査の有無	—
	監査を実施する者の氏名又は名称	—
	直近時点で行われた監査年月日	—
	その監査結果 (統括者に関する情報)	—
	記録者の統括者の有無	—
	統括者の名称	—
	統括者の所在地	—
	統括者の属性	—
	統括者の概要	—
暗 号 資 産 に 関 する	価値移転ネットワークの脆弱性に関する特記事項	第三者に秘密鍵を知られた場合には、利用者になりすまして送付指示を行うことができる。
	保有情報暗号化技術の脆弱性に関する特記事項	—
	発行者の破たんによる価値喪失の可能性に関する特記事項	—
	価値移転記録者の破たんによる価値喪失の可能性に関する特記事項	—
	移転の記録が遅延する可能性に関する特記事項	なし
	プログラムの不具合によるリスク等に関する特記事項	他の暗号資産と同様に、現時点でまだ発見されていない脆弱性を悪意のある攻撃者に突かれる一定のリスクは存在するものの、現状は正常に稼働している。

在 す る リ ス ク	過去に発生したプログラムの不具合の発生状況に関する特記事項	なし
	非互換性のアップデート（ハードフォーク）の状況	2023年1月17日ハードフォークV0.3.1を実施し、ネットワークガス料金の急上昇を防ぎ、チェーンの再編成（Reorgs）に対処 2024年3月「Napoli」実装完了 2024年9月4日トークンシンボルをPOLに変更
	今後の非互換性アップデート予定	Reorgs問題解決対策として数秒以内のファイナリティの獲得のため、再度ハードフォークを実施予定。 「Feijoa」アップグレードで、Dencunの手数料削減機能EIP-4844導入予定。
	正常な稼働に影響を与えたサイバー攻撃の履歴	なし
流 通 状 況	価格データの出所	出所：Zaif Orderbook trading URL： https://zaif.jp/sp/trade/matic_jpy
	1取引単位当たり計算単価（ドル基準、例：\$1,000,000）	\$0.1826
	1取引単位当たり計算単価（円基準、例：¥100,000,000）	¥26.4432
	ドル/円計算レート 2025年6月30日基準	144.81
	四半期取引数量	2025年4月～6月 ¥1,603,745(百万円) 出所：CoinMarketCap URL： https://coinmarketcap.com/ja/currencies/polygon-ecosystem-token/historical-data/
	付帯条件	—

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">付帯条件・付言</p>	<p>付言</p>	<p>【MATIC_Ethereum】</p> <p>①利用者に対して、取り扱う暗号資産がEthereumベースとPolygonベースの2種類が存在する銘柄であることの詳しい説明を行うこと、また、利用者に対してMATICトークンが存在する複数の環境間の移転の可否、誤送付が起きる危険性などをあらかじめ伝える必要があり、売買時には、利用者がどの環境の暗号資産を取り扱っているのかについて、明確にわかりやすく提示することの2点について図るべきこと。</p> <p>【MATIC_Polygon】</p> <p>①EthereumベースとPolygonベースの2種類が存在する銘柄であることの詳しい説明を行うこと、また、利用者に対してMATICトークンが存在する複数の環境間の移転の可否、誤送付が起きる危険性などをあらかじめ伝える必要があり、売買時には、利用者がどの環境の暗号資産を取り扱っているのかについて、明確にわかりやすく提示することの2点について図るべきこと。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">備考</p>		<p>2024年9月4日PolygonプロジェクトにおいてMATICトークンが新たにPOLトークン(Polygon Ecosystem Token)へ移行。</p> <p>(1) 参照ページ：「ポリゴンエコシステムトークン(POL)※旧ポリゴン(MATIC)とはなんですか？」</p> <p>(2)※当社取扱について POLには、EthereumベースとPolygonベースの2種類が存在します。当社が取り扱うのは、Polygonベース（Polygonチェーン）のみです。Ethereumベース等、異なるネットワークを利用して送金された場合、資産は永久に失われ、復旧できません。</p>